

ベトナム・ダナン産婦人科小児科病院「コミュニケーション能力」研修 ～「病院内の体系的な看護師・助産師教育プログラム導入プロジェクト」～

2013年1月、第2回研修員として、看護師長・助産師長ら6名を神戸に受け入れました。第2回受入研修では、ダナン産婦人科小児科病院側の要望を踏まえ、「コミュニケーション能力」に関する研修を実施しました。ダナン産婦人科小児科病院では、看護師が患者や患者の家族と接する時間が長く、患者からのクレームは看護師に関するものが多いので、日本の看護師のコミュニケーションを学び、改善を図りたいとのことでした。

西市民病院では、研修中のロールプレイで患者役、看護師役を体験しながら、傾聴の基本的態度及び技法を学びました。看護大学では、同僚や患者とのコミュニケーションについて講義を受けた後、研修実施計画であるアクションプランを作成し、最終日にはその発表をしました。

2月には第3回、5月には第4回の専門家派遣を行いました。

第3回、第4回派遣時には、ダナン産婦人科小児科病院にて第2回受入研修テーマでもあった、「コミュニケーション能力」をテーマにした新人看護師研修が実施されました。コミュニケーションは国や文化が異なると捉え方も異なってくることもあり、日本で学んだことをベースに、ベトナムの言語や文化という観点から研修内容が上手にアレンジされていました。研修は講義だけではなく、DVDによる映像を用いた事例研修やロールプレイを加えており、研修効果を高める工夫が感じられました。講師を担当した看護師長たち自身も事前準備や勉強会等を積極的に行い、人に教えるためには自らも学ばなくてはならないというスタンスが院内で少しずつ広まりつつあるようです。今後は新人だけではなく中堅や様々な年代のスタッフに対しても教育していきたいと検討しているとのことでした。



＜講師（看護師長）がスライドを使用して説明を行う様子＞

神戸から参加した専門家から、「ロールプレイを研修員が即興でできるということは常日頃から意識ができていた証拠だ。」「研修資料、講師の知識の豊富さに感心した。」等の感想や、「研修室の広さをもう少し検討してみては。」「小児患者やその家族に対してのコミュニケーションを今後の研修テーマとして扱ってみては。」等のコメントを行いました。

今後は、平成25年度中に、7月、12月の2回、各回6名ずつ看護師長・助産師長クラスの研修員を神戸に受け入れて技術的な研修を行うほか、9月には、研修担当者である医師・看護部長ら研修員を受け入れて研修プログラム策定方法について研修を行います。また、10月、2月に専門家を現地に派遣します。平成26年度も年2回の研修員受入と3回の専門家派遣を予定しています。